

平成 18 年度診療報酬改定結果検証に係る調査
ニコチン依存症管理料算定保険医療機関における
禁煙成功率の実態調査
報 告 書 (案)

目 次

1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査項目	2
5. 結果	3
(1) 回収の状況	3
(2) 一次調査：施設の状況（平成 18 年 11 月）	4
(3) 一次調査：患者の状況	14
(4) 二次調査：患者の状況	24
6. まとめ	30

1. 目的

ニコチン依存症管理料算定医療機関の実態を把握すると共に、ニコチン依存症管理料を算定した患者に対する禁煙治療の実施状況と禁煙成功率を把握する事を目的とした。

2. 調査対象

本調査では、一次調査と二次調査を実施した。一次調査においては施設を対象とした施設調査と、ニコチン依存症管理料を算定した患者についての患者調査を実施した。二次調査では、患者調査のみ実施した。

一次調査の施設調査では、全国の保険医療機関の中で、平成18年7月1日現在にニコチン依存症管理料を届出していた施設から無作為に抽出した1,000施設を対象とした。

患者調査は、上記の調査対象施設において、平成18年6月および7月の2ヶ月間に、医療機関でニコチン依存症管理料の算定を開始した患者全員を対象とした。

二次調査の対象は、一次調査に回答した施設における、一次調査対象患者全員とした。

3. 調査方法

○一次調査

一次調査においては、施設調査と患者調査を実施した。

施設調査は、自記式調査票の郵送配布・回収とし、施設の概況および禁煙治療の状況について調査した。

患者調査についても同様に、自記式調査票の郵送配布・回収とした。治療終了3ヶ月後の状況については、医療機関が対象患者に、現在の禁煙／喫煙状況について電話調査を実施し、その結果を調査票に記載するものとした。なお、二次調査において当該患者の追跡が必要となるため、患者ごとにIDを付与することとした。

調査時期は、施設調査・患者調査ともに平成18年12月～平成19年1月とした。

○二次調査

一次調査の患者調査対象者の治療終了から5～6ヶ月目となる平成19年3月に、当該患者のその時点での禁煙／喫煙状況について、医療機関側が追跡調査を行った。調査方法は一次調査と同様、自記式調査票の郵送配布・回収とした。

一次調査対象患者のその後の禁煙／喫煙状況について、医療機関が対象患者に電話調査を実施し、その結果を調査票に記入して返送いただくものとした。

調査実施は平成19年3月とした。

4. 調査項目

一次調査、二次調査における調査項目は以下のとおりである。施設調査（様式1）では医療機関属性や禁煙治療の実施体制等を、患者調査（様式2）では患者属性や受療の状況、禁煙成功／失敗を尋ねた。様式3では、指導終了5～6ヶ月後の禁煙／喫煙の状況を尋ねた。

図表 1 調査項目

調査		項目
一次調査	施設調査 (様式1)	<ul style="list-style-type: none">施設区分、所在地、一日平均外来患者数、開設主体、標榜診療科ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期、禁煙治療の体制、禁煙治療に携わる職員数、患者さんに対する1回あたりの平均指導時間、ニコチン依存症管理料算定患者数
	患者調査 (様式2)	<ul style="list-style-type: none">性別、年齢、喫煙年数、1日あたりの喫煙本数、TDS点数、算定状況、指導終了時の喫煙・禁煙の状況、指導終了3ヶ月後の喫煙・禁煙の状況 等
二次調査（様式3）		<ul style="list-style-type: none">指導終了5～6ヶ月後（平成19年3月時点）の状況

なお、禁煙治療を途中で中止した患者に、3ヶ月後、6ヶ月後の禁煙／喫煙状況を尋ねる際には、5回にわたる指導が終了していたと仮定して、その仮定の終了時から3ヶ月後の状況、および6ヶ月後の状況を尋ねた。

5. 結果

(1) 回収の状況

1) 一次調査

施設調査票は、有効回収数が 501、回収率は 50.1%であった。また、様式 2 を回答したのは 456 施設であり、記載された患者数は合計で 4,189 人であった（該当患者不在等で施設調査票のみの提出をした施設が 45 施設）。

図表 2 回収の状況（一次調査）

調査票	有効回収数	回収率
施設調査票（様式 1）	501	50.1%
様式 2 に記載された患者数（456 施設分）	4,189	—

* 様式 2 において、ニコチン依存症管理料算定要件外であるデータ、ブリンクマン指数が 200 未満もしくは TDS 点数が 5 点未満のデータ、および算定開始日が平成 18 年 6 月・7 月以外のデータを無効票として除き、有効回収数とした。

2) 二次調査

一次調査で様式 2（患者調査）の調査票を回収した 456 施設に対し、同じ調査対象患者のニコチン依存症治療終了後 5～6 ヶ月後の状況を調査するため、様式 3（二次調査票）を発送した結果、242 施設から回収することができた。様式 3 に記載された患者数は 2,225 であった。

図表 3 回収の状況（二次調査）

調査票	有効回収数	回収率
様式 3 に回答した施設数	242	53.1%
様式 3 に記載された患者数	2,225	—

* 様式 2 において、ニコチン依存症管理料算定要件外であるデータ、ブリンクマン指数が 200 未満もしくは TDS 点数が 5 点未満のデータ、および算定開始日が平成 18 年 6 月・7 月以外のデータを無効票として除き、有効回収数とした。

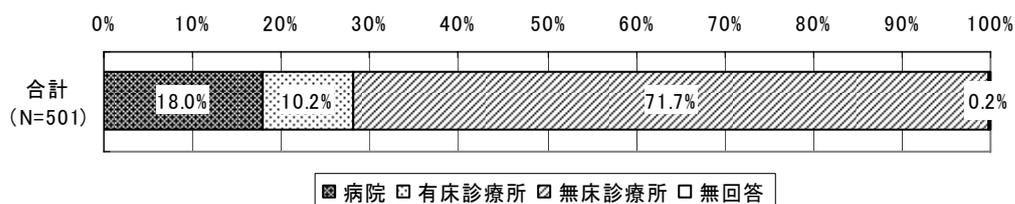
* 回収数は平成 19 年 3 月 19 日時点の数値である。

(2) 一次調査：施設の状況（平成18年11月）

1) 施設区分

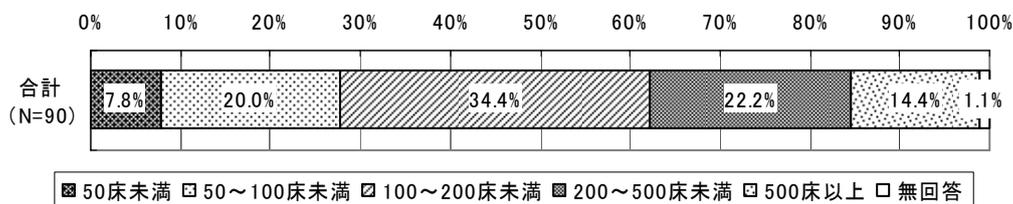
施設区分についてみると、「無床診療所」(71.7%)が最も多く、次いで「病院」(18.0%)、「有床診療所」(10.2%)となっている。

図表 4 施設区分



病院における病床数についてみると、「100～200床未満」(34.4%)が最も多く、次いで「200～500床未満」(22.2%)、「50～100床未満」(20.0%)となっている。

図表 5 病床数（病院）



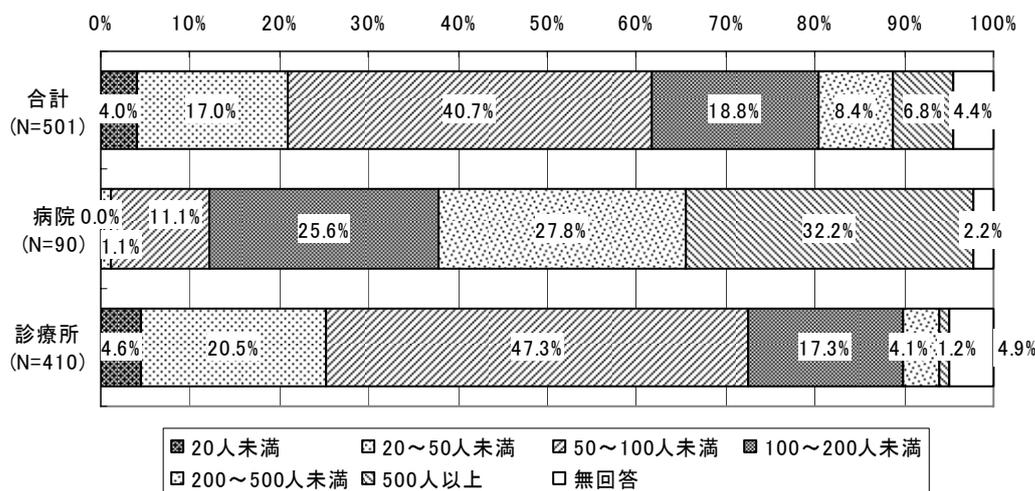
2) 1日平均外来患者数（平成18年11月）

1日平均外来患者数（平成18年11月）についてみると、医療機関全体では、「50～100人未満」（40.7%）が最も多く、次いで「100～200人未満」（18.8%）、「20～50人未満」（17.0%）となっている。

医療機関種別にみると、病院においては、「500人以上」（32.2%）が最も多く、次いで「200～500人未満」（27.8%）、「100～200人未満」（25.6%）となっている。平均は461.20人（標準偏差433.08、中央値279.50）であった。

また、診療所においては、「50～100人未満」（47.3%）が最も多く、次いで「20～50人未満」（20.5%）、「100～200人未満」（17.3%）となっている。平均は84.87人（標準偏差88.91、中央値65.00）であった。

図表 6 1日平均外来患者数（平成18年11月）



施設区分	平均値 (人)	標準偏差(人)	中央値(人)
病院	461.20	433.08	279.50
診療所	84.87	88.91	65.00

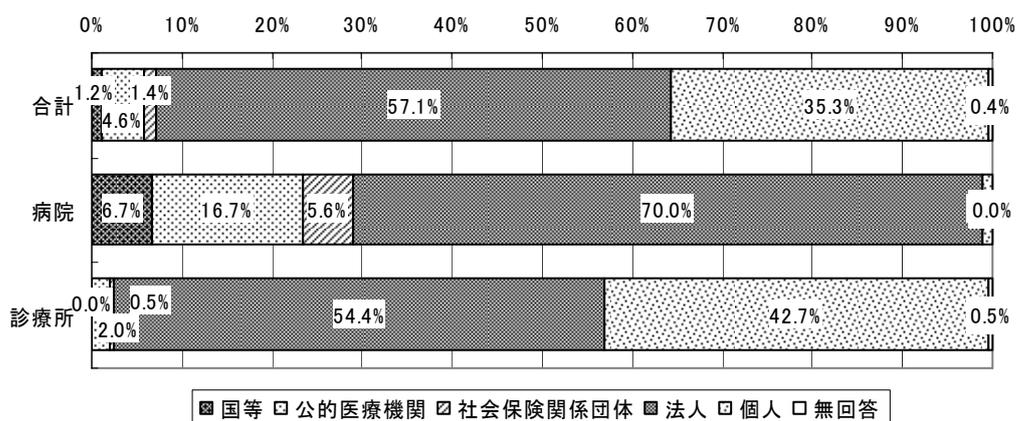
*合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

3) 開設主体

開設主体についてみると、全体では、「法人」(57.1%)が最も多く、次いで「個人」(35.3%)、「公的医療機関」(4.6%)となっている。

病院では「法人」(70.0%)が最も多く、次いで「公的医療機関」(16.7%)となっている。また、診療所においては、「法人」が54.4%、「個人」が42.7%となっている。

図表 7 開設主体



*合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

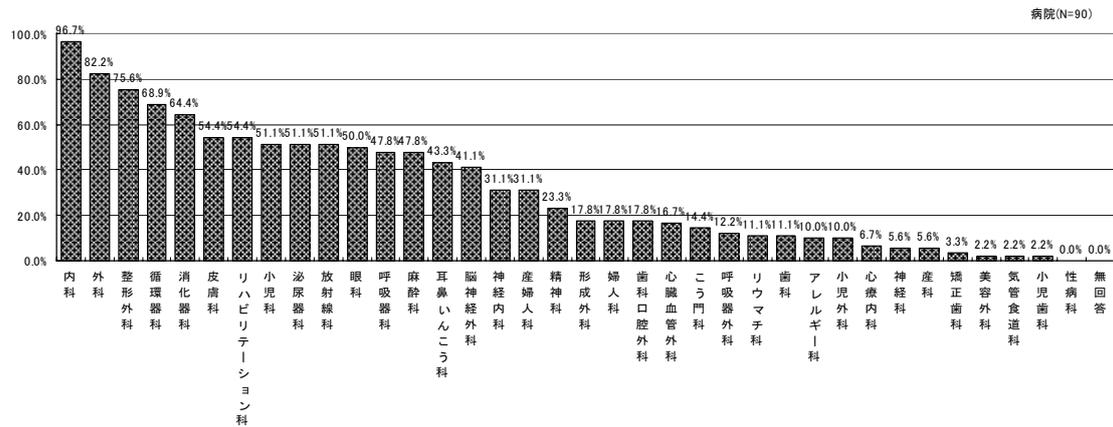
※参考：開設主体の内訳

国等	厚生労働省、国立病院機構、国立大学法人、労働者健康福祉機構等
公的医療機関	都道府県、市町村、日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会等
社会保険関係団体	全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会、健康保険組合およびその連合会、共済組合およびその連合会、国民健康保険組合等
法人	公益法人、医療法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人等
個人	

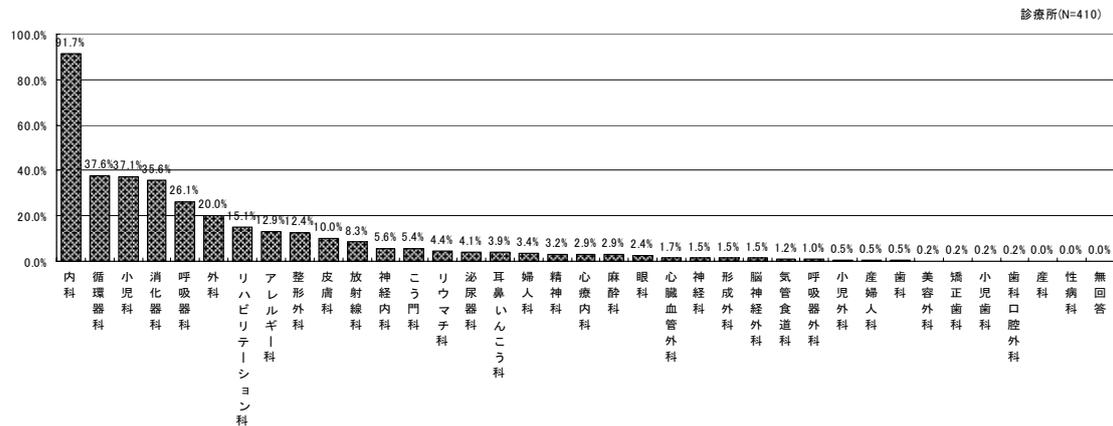
4) 標榜診療科

標榜診療科についてみると、病院、診療所ともに、「内科」が最も多い（それぞれ96.7%、91.7%）。病院では次いで「外科」（82.2%）、「整形外科」（75.6%）、診療所においては、次いで「循環器科」（37.6%）となっている。

図表 8 標榜診療科（病院）：複数回答



図表 9 標榜診療科（診療所）：複数回答



5) ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期

ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期についてみると、全体では、「4月」(35.7%)が最も多く、次いで、「6月」(25.0%)となっている。

医療機関種別にみると、病院、診療所ともに4月の診療報酬改定直後から届け出た施設が多く、それぞれ51.1%、32.2%となっている。

また、5月の届出は減少しているものの、ニコチンパッチ等が保険適用となった6月には再び届出が増加しており、病院、診療所ではそれぞれ20.0%、26.1%となっている。

図表 10 ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期

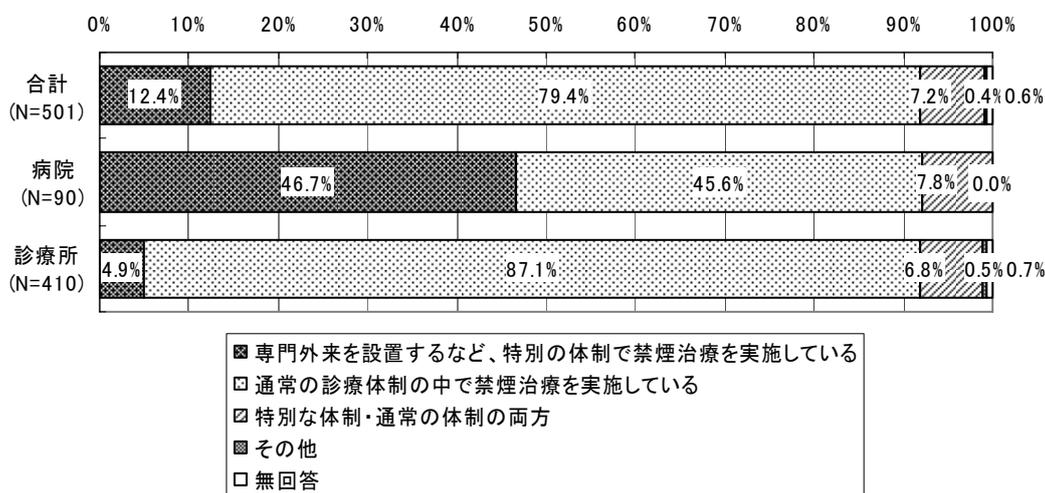
	合計	4月	5月	6月	7月	それ以外	無回答
合計	501	179 35.7%	55 11.0%	125 25.0%	106 21.2%	19 3.8%	17 3.4%
病院	90	46 51.1%	7 7.8%	18 20.0%	17 18.9%	1 1.1%	1 1.1%
診療所	410	132 32.2%	48 11.7%	107 26.1%	89 21.7%	18 4.4%	16 3.9%
無回答	1	1 100.0%	-	-	-	0 0.0%	-

6) 禁煙治療の体制

医療機関全体では、「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(79.4%)が最も多く、次いで「専門外来を設置するなど、特別の体制で禁煙治療を実施している」(12.4%)となっている。

医療機関種別にみると、病院においては、「専門外来を設置するなど、特別の体制で禁煙治療を実施している」(46.7%)が最も多く、次いで「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(45.6%)となっている。診療所においては、「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(87.1%)が最も多く、次いで「特別な体制・通常の体制の両方」(6.8%)となっている。

図表 11 禁煙治療の体制



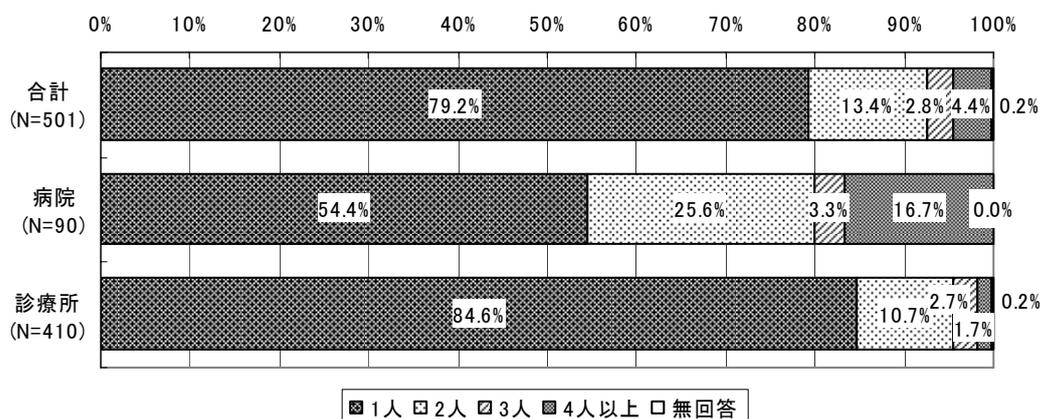
* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

7) 禁煙治療に携わる職員数

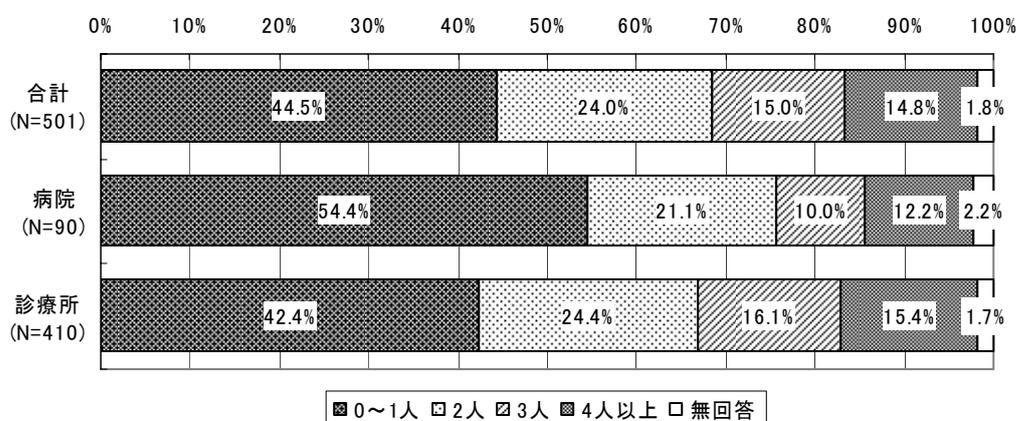
禁煙治療に携わる職員数（医師数）についてみると、病院では、「1人」（54.4%）が最も多いが、次いで「2人」（25.6%）。「4人」（16.7%）となっており、複数の医師が診療に携わっている場合も多くなっている。平均は2.31人（標準偏差2.69、中央値1.00）であった。また、診療所では、「1人」（84.6%）が最も多い。平均は1.24人（標準偏差0.83、中央値1.00）であった。

看護師数についてみると、病院では、「0～1人」（54.4%）が最も多く、次いで「2人」（21.1%）となっている。平均は2.23人（標準偏差2.80、中央値1.00）であった。診療所でも同様に、「0～1人」（42.4%）、「2人」（24.4%）となっている。平均は2.37人（標準偏差2.14、中央値2.00）であった。

図表 12 禁煙治療に携わる職員数（医師数）



図表 13 禁煙治療に携わる職員数（看護師数）

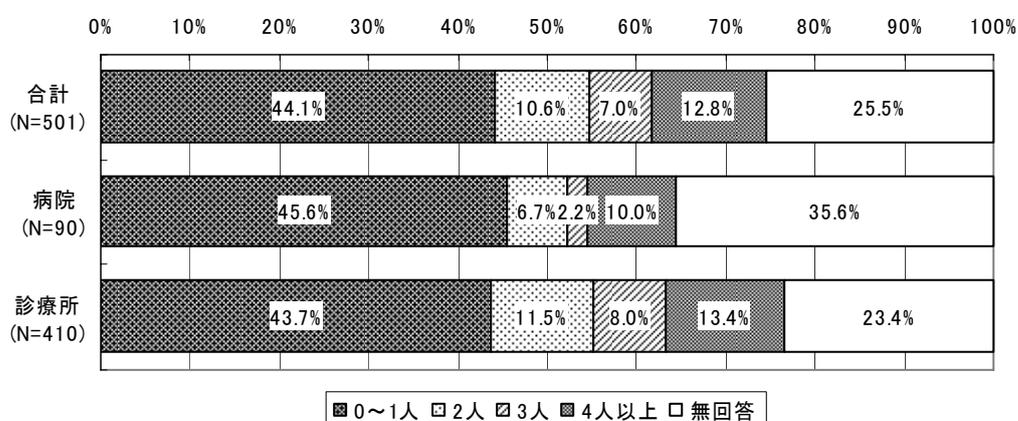


* 合計（N=501）には、施設区分不明（N=1）を含む。

禁煙治療に携わる職員数（その他の職員数）についてみると、全体では「0～1人」（44.1%）が最も多く、次いで「4人以上」（12.8%）となっている。平均は2.37人（標準偏差7.27、中央値1.00）であった。

この傾向は医療機関種別でも同様で、病院においては、それぞれ45.6%、10.0%となっており、平均は3.24人（標準偏差15.08、中央値0.00）であった。診療所においてはそれぞれ43.7%、13.4%となっており、平均は2.21人（標準偏差4.54、中央値1.00）であった。

図表 14 禁煙治療に携わる職員数（その他の職員）



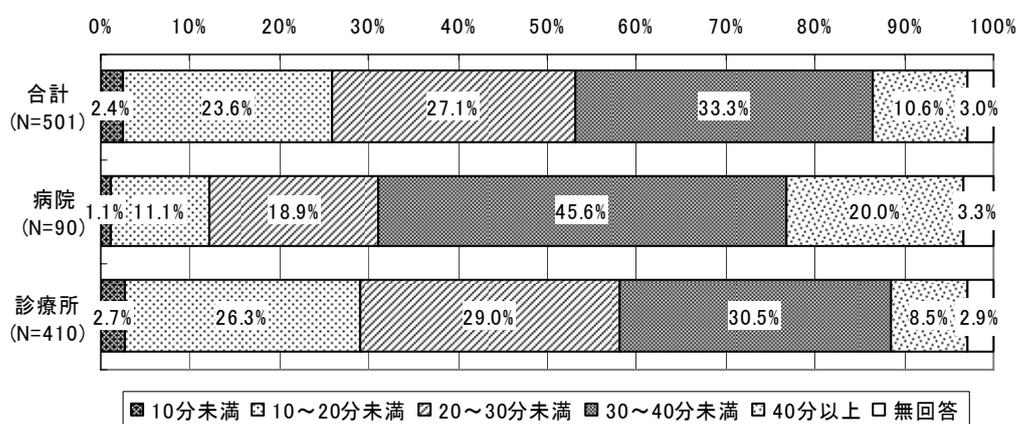
*合計（N=501）には、施設区分不明（N=1）を含む。

8) 患者に対する1回あたりの平均指導時間

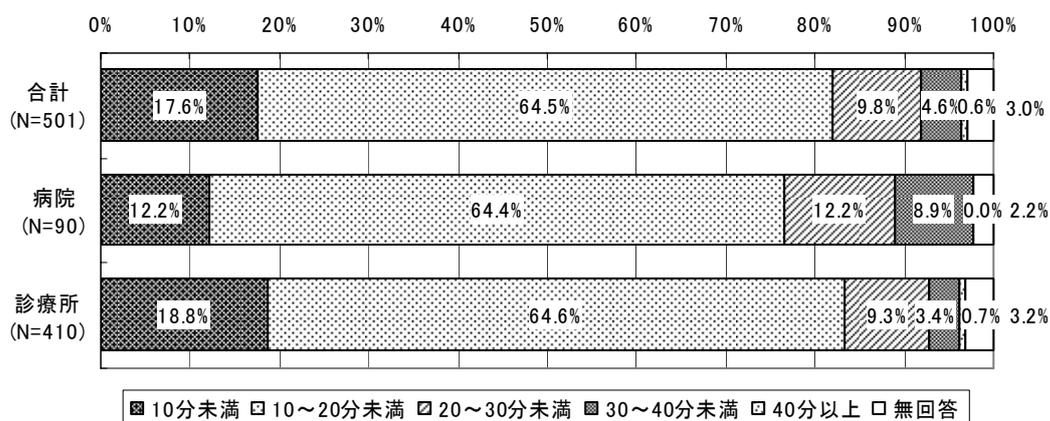
患者に対する1回あたりの平均指導時間についてみると、初回の指導では平均24.86分（標準偏差12.33、中央値20.00）であった。医療機関別に見ると、病院の方が初回の治療に時間をかけている傾向がみられた。病院では平均29.40分（標準偏差11.33、中央値30.00）、診療所では平均23.85分（標準偏差12.32、中央値20.00）であった。

2回目以降の指導の平均指導時間についてみると、全体では「10～20分未満」（64.5%）が最も多く、平均は12.59分（標準偏差6.50、中央値10.00）であった。病院、診療所ともに同様の傾向であり、平均時間はそれぞれ14.43分（標準偏差6.78、中央値15.00）、12.14分（標準偏差6.31、中央値10.00）であった。

図表 15 患者に対する1回あたりの平均指導時間（初回の指導）



図表 16 患者に対する1回あたりの平均指導時間（2回目以降の指導）



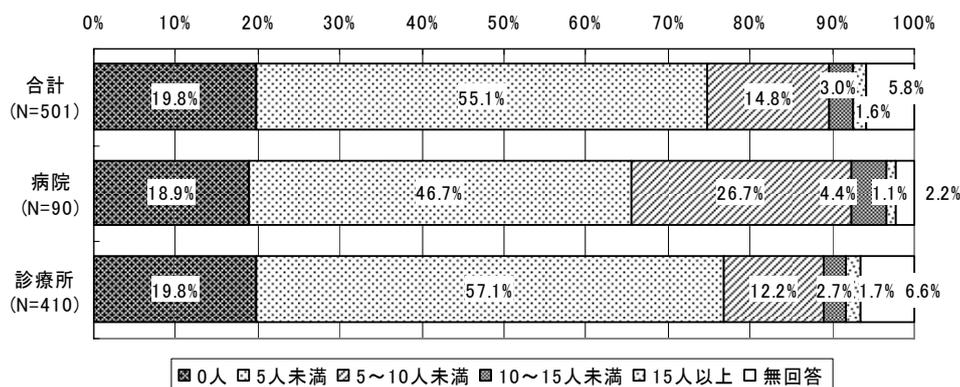
* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

9) 平成 18 年 11 月 (1 ヶ月) におけるニコチン依存症管理料算定患者数

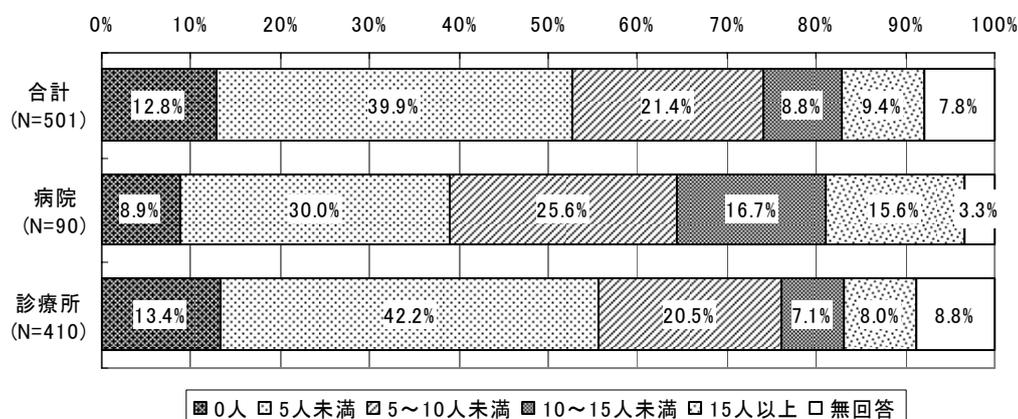
平成 18 年 11 月 (1 ヶ月) におけるニコチン依存症管理料算定患者数 (初回の算定患者数) についてみると、全体では、「5 人未満」(55.1%) が最も多く、次いで「0 人」(19.8%)、「5~10 人未満」(14.8%) であり、平均人数は 2.92 人 (標準偏差 3.26、中央値 2.00) であった。医療機関別に平均人数をみると、病院で 3.48 人 (標準偏差 3.13、中央値 3.00)、診療所で 2.80 人 (標準偏差 3.27、中央値 2.00) であった。

一方、2 回目以降の算定患者数についてみると、全体では、「5 人未満」(39.9%) が最も多く、病院でも「5 人未満」(30.0%)、診療所も「5 人未満」(42.2%) と最も多い。平均人数は、全体で 5.93 人 (標準偏差 7.42、中央値 6.00)、病院で 8.05 人 (標準偏差 7.68、中央値 6.00)、診療所で 5.45 人 (標準偏差 7.68、中央値 3.00) であった。

図表 17 平成 18 年 11 月 (1 ヶ月) における、ニコチン依存症管理料算定患者数 (初回の算定患者数)



図表 18 平成 18 年 11 月 (1 ヶ月) における、ニコチン依存症管理料算定患者数 (2 回目以降の算定患者数)



* 合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

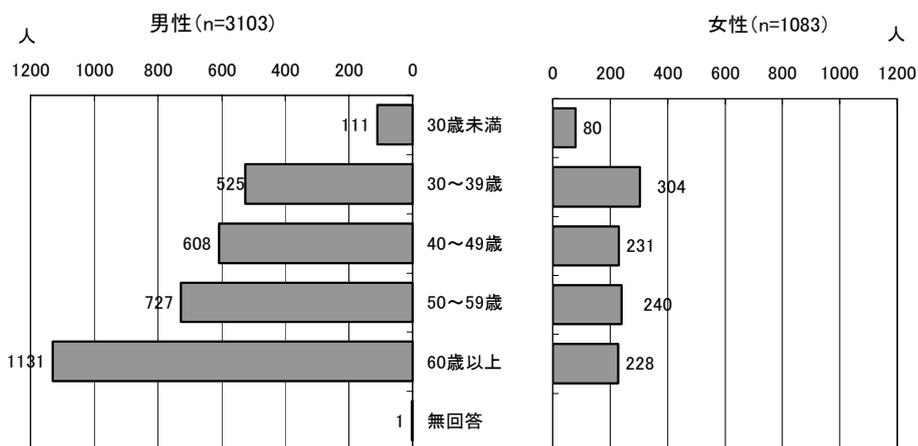
(3) 一次調査：患者の状況

1) 性別および年齢

本調査で分析対象とした患者は、男性 3,103 人、女性 1,083 人、性別不明 3 人で合計 4,189 人である。

男性においては「60 歳以上」(1,131 人) が最も多く、次いで「50～59 歳」(727 人)、となっており、年齢が高い層が多くなっている。平均は 53.29 歳 (標準偏差 13.97、中央値 54.00) であった。一方、女性においては「30～39 歳」(304 人) が最も多く、男性と比較して若年層が多い結果となっている。平均は 47.45 歳 (標準偏差 13.78、中央値 46.00) であった。

図表 19 性別および年齢

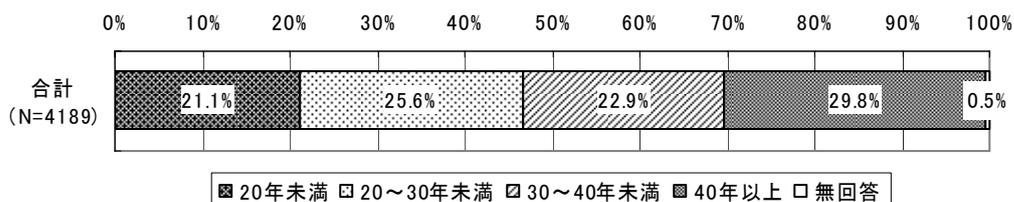


*性別無回答 (N=3) を除く

2) 喫煙年数

喫煙年数についてみると、「40 年以上」(29.8%) が最も多く、次いで「20～30 年未満」(25.6%) となっている。平均は 30.35 年 (標準偏差 13.03、中央値 30.00) であった。

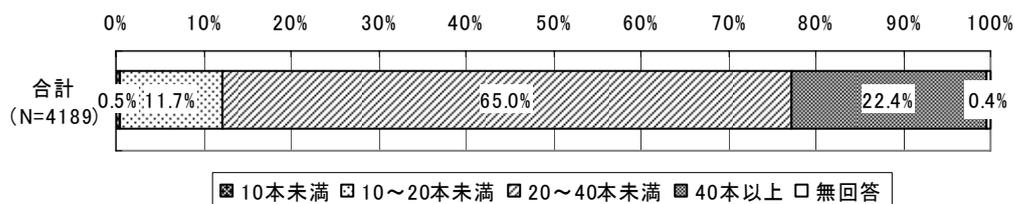
図表 20 喫煙年数



3) 1日あたりの喫煙本数

1日あたりの喫煙本数についてみると、「20～40本未満」(65.0%)が最も多く、次いで「40本以上」(22.4%)、「10～20本未満」(11.7%)となっている。平均は27.51本(標準偏差12.05、中央値25.00)であった。

図表 21 1日あたりの喫煙本数

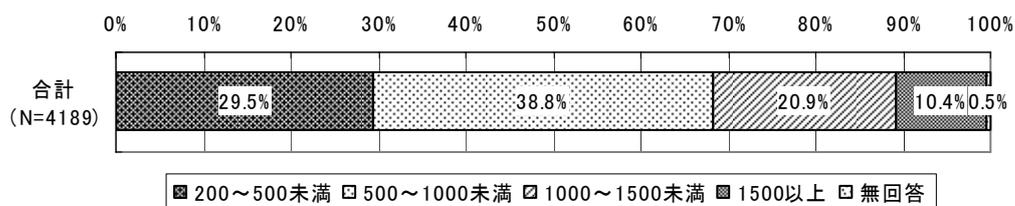


4) ブリンクマン指数

ブリンクマン指数(喫煙年数×1日あたり喫煙本数)についてみると、「500～1000未満」(38.8%)が最も多く、次いで、「200～500未満」(29.5%)、「1000～1500未満」(20.9%)となっている。

平均は824.07点、標準偏差は508.59、中央値は740.00であった。

図表 22 ブリンクマン指数

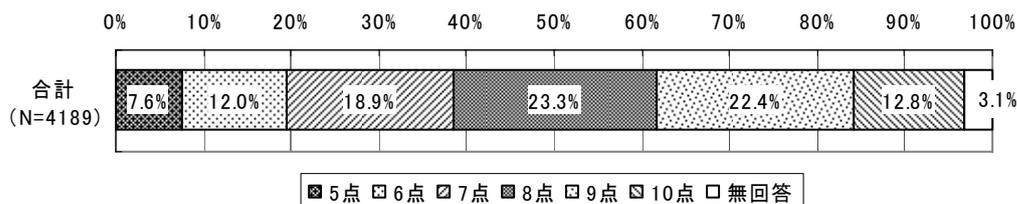


5) TDS 点数

治療開始時の TDS 点数についてみると、「8 点」(23.3%)が最も多く、次いで「9 点」(22.4%)、「7 点」(18.9%)、「10 点」(12.8%)、「6 点」(12.0%) と続いている。

平均は 7.82 点、標準偏差は 1.46、中央値は 8.00 であった。

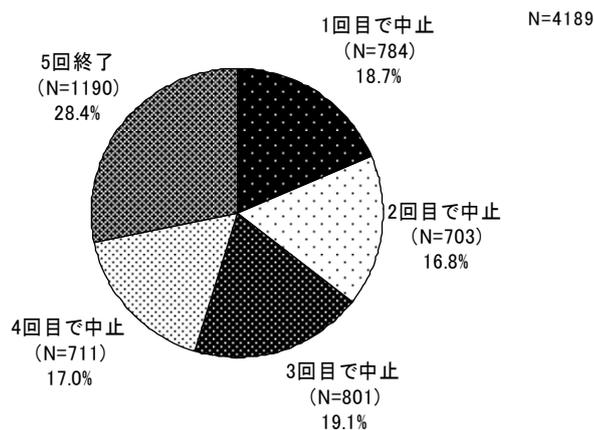
図表 23 TDS 点数



6) ニコチン依存症管理料算定回数の状況

ニコチン依存症管理料算定回数 (=治療回数) の状況についてみると、全体では「5 回目で終了」(28.4%)が最も多く、次いで「3 回目で中止」(19.1%)、「1 回目で中止」(18.7%)、「4 回目で中止」(17.0%)、「2 回目で中止」(16.8%) となっている。なお、算定回数の平均値は 3.20 回 (標準偏差 1.48、中央値 3.0) であった。

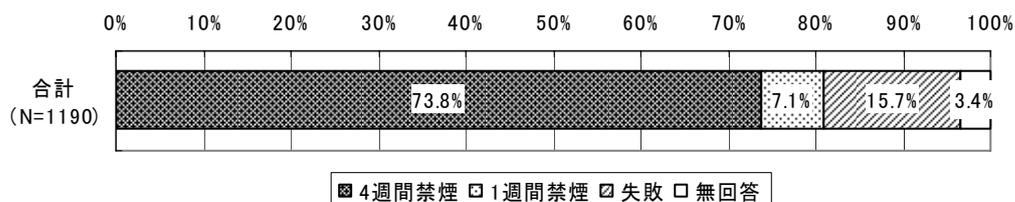
図表 24 ニコチン依存症管理料算定回数の状況



7) 5回の指導を全て終了した患者の治療終了時の状況

ニコチン依存症治療を5回全て終了した1,190人において、5回目指導終了時の状況についてみると、「4週間禁煙」が73.8%、「1週間禁煙」が7.1%、「失敗」が15.7%となっている。

図表 25 5回目指導終了時の状況



※参考：禁煙の定義

1週間禁煙	<ul style="list-style-type: none"> 5回の治療が終了している時点で禁煙しており、5回終了時点からさかのぼって少なくとも1週間、1本も吸わずに禁煙を継続している人 かつ、5回目の指導時の呼気一酸化炭素濃度の値が非喫煙者レベル（8ppm未満）であった人
4週間禁煙	<ul style="list-style-type: none"> 5回終了時点で禁煙しており、5回終了時からさかのぼって少なくとも4週間、1本も吸わずに禁煙を継続している人 かつ、4回目と5回目の指導時の呼気一酸化炭素濃度の値が非喫煙者レベル（8ppm未満）であった人

また、年齢別の5回目指導終了時の状況を以下に示す。5回目指導終了時の「4週間禁煙」は、合計で73.8%であり、40歳以上で70%以上、40歳未満で70%未満となっている。「失敗」については30歳～39歳(20.4%)が最も高くなっている。

図表 26 5回目指導終了時の状況（年齢別）

	合計	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
合計	1190	878 73.8%	84 7.1%	187 15.7%	41 3.4%
【年齢】					
30歳未満	23	16 69.6%	3 13.0%	3 13.0%	1 4.3%
30～39歳	142	96 67.6%	10 7.0%	29 20.4%	7 4.9%
40～49歳	193	147 76.2%	14 7.3%	26 13.5%	6 3.1%
50～59歳	281	209 74.4%	17 6.0%	46 16.4%	9 3.2%
60歳以上	551	410 74.4%	40 7.3%	83 15.1%	18 3.3%

ブリンクマン指数別、および TDS 点数別の 5 回目指導終了時の状況を以下に示す。

ブリンクマン指数別では、特に顕著な傾向は見られなかったが、TDS 点数別にみると、全体的に治療開始時の TDS 点数が低い方が禁煙に成功している傾向が見られた。

図表 27 5 回目指導終了時の状況（ブリンクマン指数別）

	合計	4 週間 禁煙	1 週間 禁煙	失敗	無 回 答
合計	1190	878 73.8%	84 7.1%	187 15.7%	41 3.4%
【ブリンクマン指数】					
200～500未満	259	189 73.0%	17 6.6%	40 15.4%	13 5.0%
500～1000未満	479	363 75.8%	29 6.1%	73 15.2%	14 2.9%
1000～1500未満	310	227 73.2%	27 8.7%	48 15.5%	8 2.6%
1500以上	138	98 71.0%	11 8.0%	25 18.1%	4 2.9%
無回答	4	1 25.0%	-	1 25.0%	2 50.0%

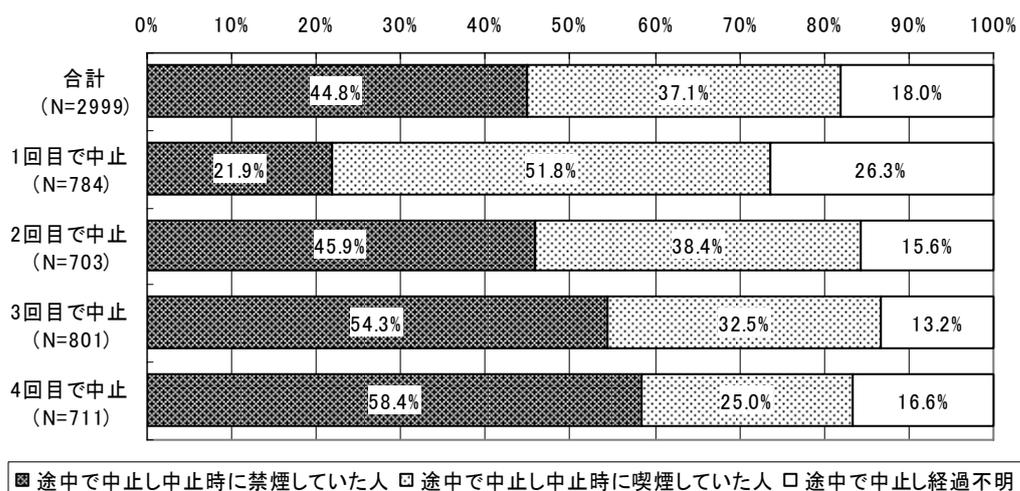
図表 28 5 回目指導終了時の状況（TDS 点数別）

	合計	4 週間 禁煙	1 週間 禁煙	失敗	無 回 答
合計	1190	878 73.8%	84 7.1%	187 15.7%	41 3.4%
【TDS点数】					
5点	93	74 79.6%	6 6.5%	9 9.7%	4 4.3%
6点	146	117 80.1%	4 2.7%	22 15.1%	3 2.1%
7点	217	164 75.6%	15 6.9%	30 13.8%	8 3.7%
8点	274	207 75.5%	15 5.5%	44 16.1%	8 2.9%
9点	291	204 70.1%	30 10.3%	44 15.1%	13 4.5%
10点	140	91 65.0%	13 9.3%	35 25.0%	1 0.7%
無回答	29	21 72.4%	1 3.4%	3 10.3%	4 13.8%

8) 5回の指導を途中で中止した患者の中止時の状況

ニコチン依存症管理料の算定を5回目より前に中止した患者(2,999人)では、中止時に44.8%が禁煙していた。ニコチン依存症治療を実施した回数が多いほど、中止時の禁煙率が高い傾向が認められた。

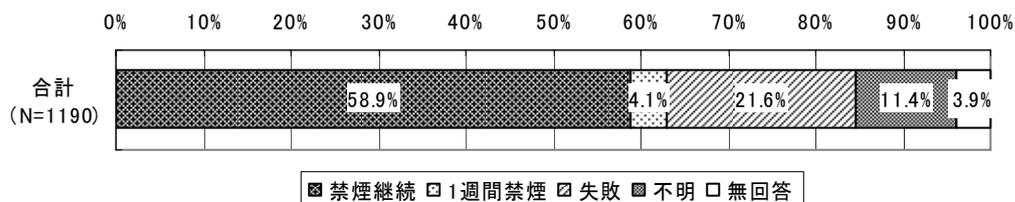
図表 29 ニコチン依存症治療中止時の状況



9) 5回の指導を全て終了した患者の3ヶ月後の状況

5回の指導を終了した患者(1,190人)の、指導終了3ヶ月後の状況についてみると、「禁煙継続」が最も多く58.9%となっている。一方で、「失敗」も21.6%であった。

図表 30 ニコチン依存症治療を5回終了した人における、指導終了3ヶ月後の状況



※参考：禁煙の定義

1週間禁煙	<ul style="list-style-type: none"> 3ヶ月後の調査時点で禁煙しており、少なくとも1週間、1本も吸わずに禁煙を継続している人 禁煙/喫煙の状況については、自己申告とする。
禁煙継続	<ul style="list-style-type: none"> 5回目の指導終了時から3ヶ月後調査までの期間、または指導中断時から3ヶ月後調査までの期間、1本も吸わずに禁煙を継続している人 禁煙/喫煙の状況については、自己申告とする。

また、年齢別の指導終了3ヶ月後の状況を以下に示す。

「禁煙継続」は50歳未満では50%台であり、50歳以上で60%を超えていた。「失敗」については40歳未満で20%以上、40歳以上で20%未満であった。

図表 31 指導終了3ヶ月後の状況（年齢別）

	合計	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
合計	1190	701 58.9%	49 4.1%	257 21.6%	136 11.4%	47 3.9%
【年齢】						
30歳未満	23	12 52.2%	2 8.7%	5 21.7%	3 13.0%	1 4.3%
30～39歳	142	72 50.7%	5 3.5%	36 25.4%	24 16.9%	5 3.5%
40～49歳	193	111 57.5%	7 3.6%	38 19.7%	29 15.0%	8 4.1%
50～59歳	281	171 60.9%	11 3.9%	56 19.9%	35 12.5%	8 2.8%
60歳以上	551	335 60.8%	24 4.4%	122 22.1%	45 8.2%	-

ブリンクマン指数別、および TDS 点数別の指導終了 3 ヶ月後の状況を以下に示す。

ブリンクマン指数別にみると、指数が高い方が失敗の割合がやや高い傾向が見られた。また、TDS 点数別にみると、全体的に治療開始時の TDS 点数が低い方が禁煙に成功している傾向が見られた。TDS 点数 5 点の場合は 14.0%が禁煙に失敗、10 点の場合は 32.1%が禁煙失敗となっており、TDS 点数が高い患者は、終了時に禁煙に失敗している割合が高くなっている。

図表 32 指導終了 3 ヶ月後の状況（ブリンクマン指数別）

	件数	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
合計	1190	701 58.9%	49 4.1%	257 21.6%	136 11.4%	47 3.9%
【ブリンクマン指数】						
200～500未満	259	146 56.4%	14 5.4%	50 19.3%	36 13.9%	13 5.0%
500～1000未満	479	294 61.4%	16 3.3%	101 21.1%	50 10.4%	18 3.8%
1000～1500未満	310	190 61.3%	14 4.5%	65 21.0%	34 11.0%	7 2.3%
1500以上	138	70 50.7%	5 3.6%	41 29.7%	13 9.4%	9 6.5%
無回答	4	1 25.0%	-	-	3 75.0%	-

図表 33 指導終了 3 ヶ月後の状況（TDS 点数別）

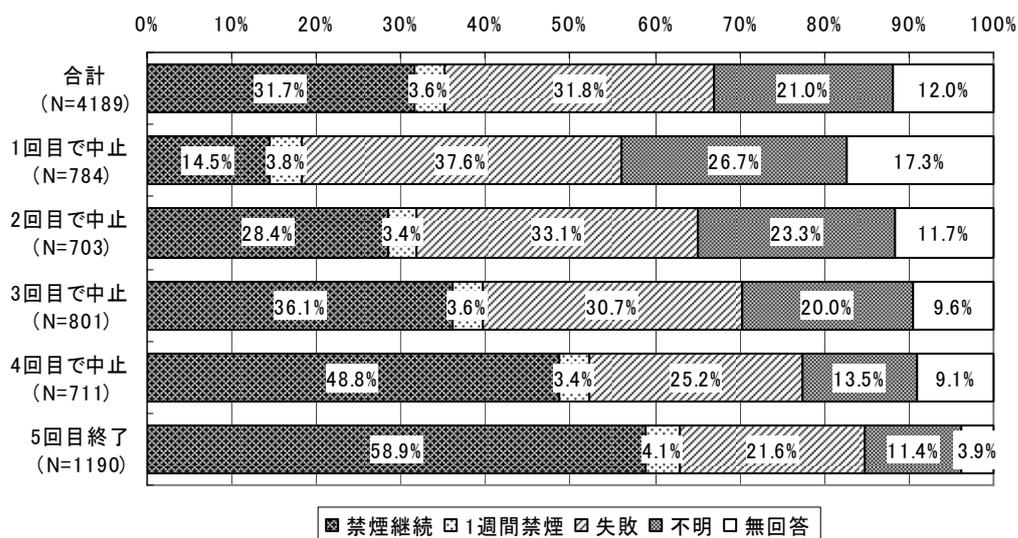
	合計	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
合計	1190	701 58.9%	49 4.1%	257 21.6%	136 11.4%	47 3.9%
【TDS点数】						
5点	93	66 71.0%	3 3.2%	13 14.0%	8 8.6%	3 3.2%
6点	146	98 67.1%	2 1.4%	31 21.2%	10 6.8%	5 3.4%
7点	217	131 60.4%	11 5.1%	40 18.4%	28 12.9%	7 3.2%
8点	274	152 55.5%	15 5.5%	57 20.8%	37 13.5%	13 4.7%
9点	291	171 58.8%	11 3.8%	65 22.3%	30 10.3%	14 4.8%
10点	140	66 47.1%	6 4.3%	45 32.1%	18 12.9%	5 3.6%
無回答	29	17 58.6%	1 3.4%	6 20.7%	5 17.2%	-

10) 算定回数別の指導終了3ヶ月後の状況

算定回数別の指導終了3ヶ月後の状況をみると、全体で31.7%が禁煙を継続していた。5回の指導を全て終了した患者の3ヶ月後の禁煙継続率は58.9%であった。

ニコチン依存症治療を中止した回数別にみると、1回目で治療を中止した患者や、2回目で治療を中止した患者では、「失敗」（それぞれ37.6%、33.1%）が「禁煙継続」（それぞれ14.5%、28.4%）を上回っているが、3回目以降まで治療を実施した患者では「禁煙継続」の割合が多く、3回目で中止した患者では36.1%、4回目で中止した患者では48.8%、5回目終了した患者では58.9%が「禁煙継続」となっており、治療回数が多いほど禁煙継続の割合が高くなっている傾向が見られた。

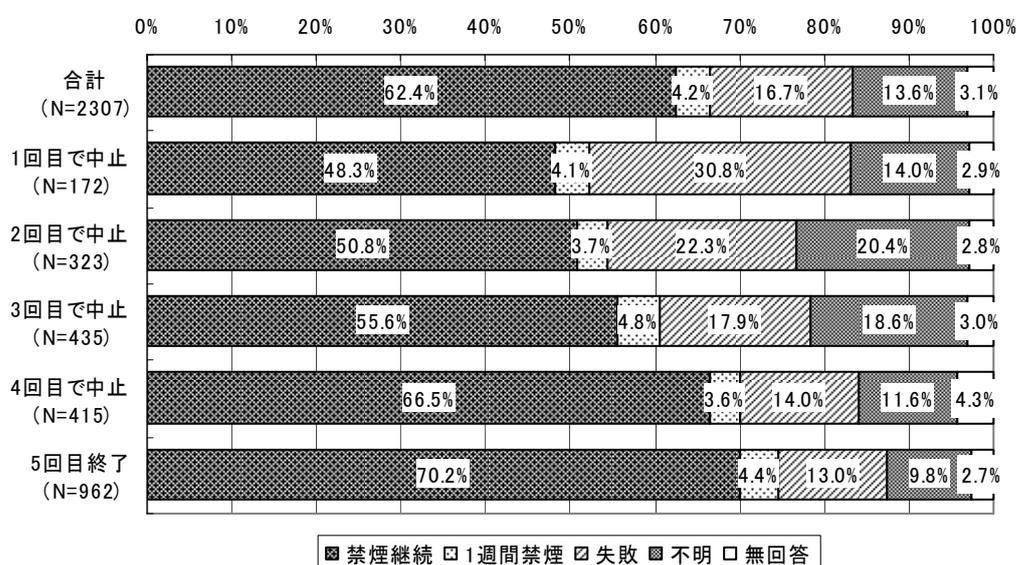
図表 34 指導終了3ヶ月後の状況（算定回数別）



また、途中で治療を中止したが中止時に禁煙していた人、および 5 回の指導を終了した時点で禁煙（1 週間禁煙もしくは 4 週間禁煙）していた 2,307 人について、指導終了 3 ヶ月後の状況を調査した。

その結果、全体的には中止時もしくは指導終了時に禁煙していた人は 3 ヶ月後も「禁煙継続」の割合が高くなっているが、1 回目で中止した人と比較して 5 回の治療を全て行っていた人の方が、禁煙継続率は高くなっている。

図表 35 指導終了 3 ヶ月後の状況（算定回数別：指導中止時／終了時の禁煙者のみ）



(4) 二次調査：患者の状況

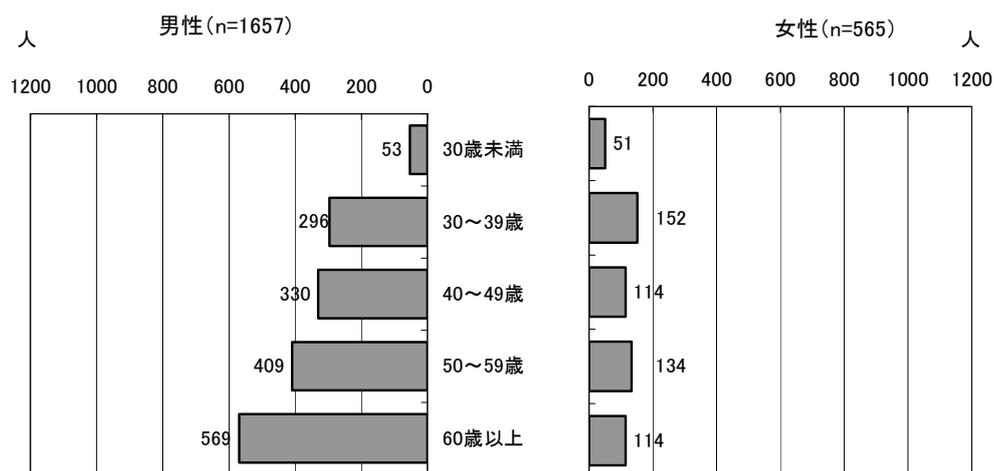
二次調査では、一次調査の対象となった患者について、指導終了 6 ヶ月後の状況を調査した。二次調査の分析対象患者は、調査票様式 3 を回収できた施設における、様式 2 に記載されている患者全数とした。

1) 患者属性

二次調査において、6 ヶ月後の禁煙／喫煙状況の分析対象とした患者は、男性 1,657 人、女性 565 人、性別不明 3 人で合計 2,225 人である。

男性では年齢が高い層が多く、女性においては若年層が多い結果となっている。この傾向は、一次調査の対象患者と同様であった。

図表 36 性別および年齢

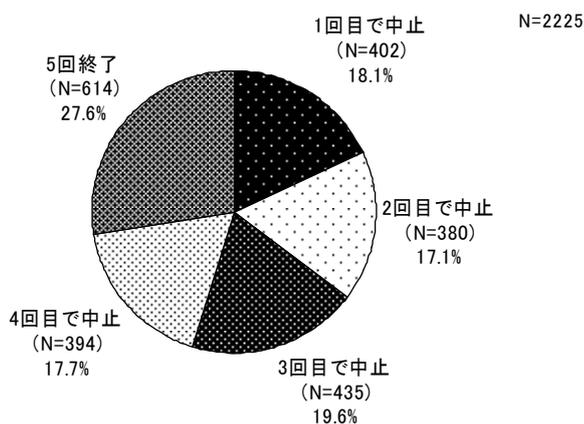


*性別無回答 (N=3) を除く

2) ニコチン依存症管理料算定回数の状況

ニコチン依存症管理料算定回数の状況についてみると、全体では「5回終了」(27.6%)が最も多く一次調査対象患者とほぼ同様の傾向であった。

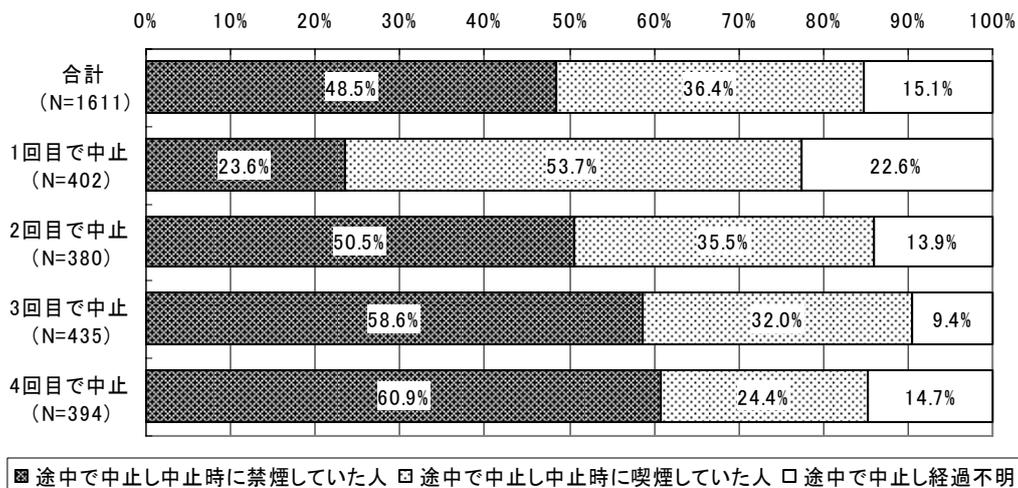
図表 37 ニコチン依存症管理料算定回数の状況



3) 5回の指導を途中で中止した患者の中止時の状況

ニコチン依存症管理料の算定を5回目より前に中止した患者 (N=1,611) では、中止時に48.5%が禁煙していた。ニコチン依存症治療を実施した回数が多いほど、中止時に禁煙していた人の割合が高くなっている。

図表 38 ニコチン依存症治療中止時の状況

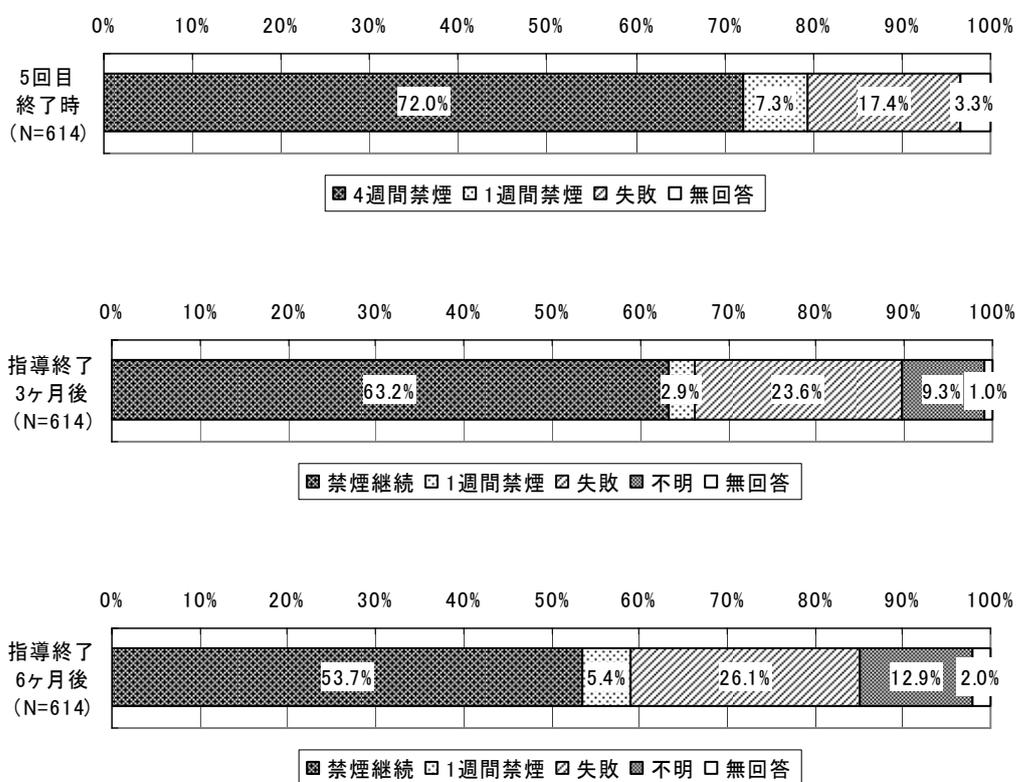


4) 5回目の指導を終了した患者の指導終了時から6ヶ月後までの状況

5回の指導を終了した患者614人における、指導終了時の状況、指導終了3ヶ月後の状況、指導終了6ヶ月後の状況を以下に示す。

回答選択肢が異なるため単純比較は難しいが、5回の指導終了時に4週間禁煙率は72.0%であったが、3ヶ月後の禁煙継続率は63.2%、6ヶ月後禁煙継続率は53.7%と減少していることがわかる。

図表 39 指導終了時・3ヶ月後・6ヶ月後の禁煙／喫煙の状況



指導終了6ヶ月後の状況を治療開始時のTDS点数別にみると、TDS点数が低い方が禁煙継続率の高い傾向となっていた。また、失敗率については、TDS点数が高い方が大きくなっている。

図表 40 指導終了6ヶ月後の状況（TDS点数別）

	合計	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
合計	614	330 53.7%	33 5.4%	160 26.1%	79 12.9%	12 2.0%
【TDS点数別】						
5点	45	30 66.7%	2 4.4%	7 15.6%	5 11.1%	1 2.2%
6点	69	43 62.3%	2 2.9%	13 18.8%	10 14.5%	1 1.4%
7点	120	66 55.0%	8 6.7%	23 19.2%	19 15.8%	4 3.3%
8点	137	67 48.9%	7 5.1%	41 29.9%	19 13.9%	3 2.2%
9点	143	82 57.3%	8 5.6%	40 28.0%	12 8.4%	1 0.7%
10点	89	36 40.4%	6 6.7%	32 36.0%	13 14.6%	2 2.2%
無回答	11	6 54.5%	-	4 36.4%	1 9.1%	-

また、5回の指導終了時の状況別にみると、指導終了時に4週間禁煙であった人のうち、現在も禁煙を継続している人は約70%となっている。

図表 41 指導終了6ヶ月後の状況（指導終了時の状況別）

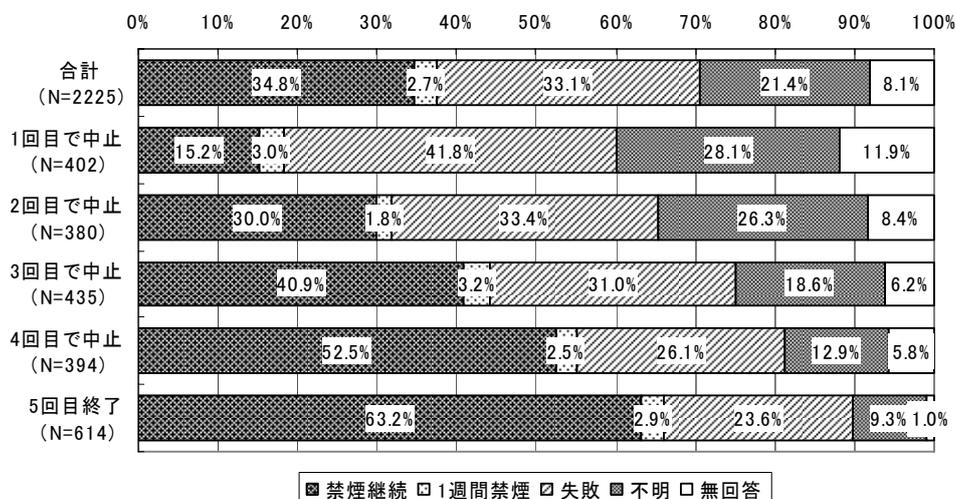
	合計	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
合計	614	330 53.7%	33 5.4%	160 26.1%	79 12.9%	12 2.0%
【指導終了時の状況】						
1週間禁煙	45	9 20.0%	13 28.9%	16 35.6%	7 15.6%	-
4週間禁煙	442	307 69.5%	11 2.5%	63 14.3%	52 11.8%	9 2.0%
失敗	107	3 2.8%	7 6.5%	80 74.8%	16 15.0%	1 0.9%
無回答	20	11 55.0%	2 10.0%	1 5.0%	4 20.0%	2 10.0%

5) 算定回数別の指導終了3ヶ月後および6ヶ月後の状況

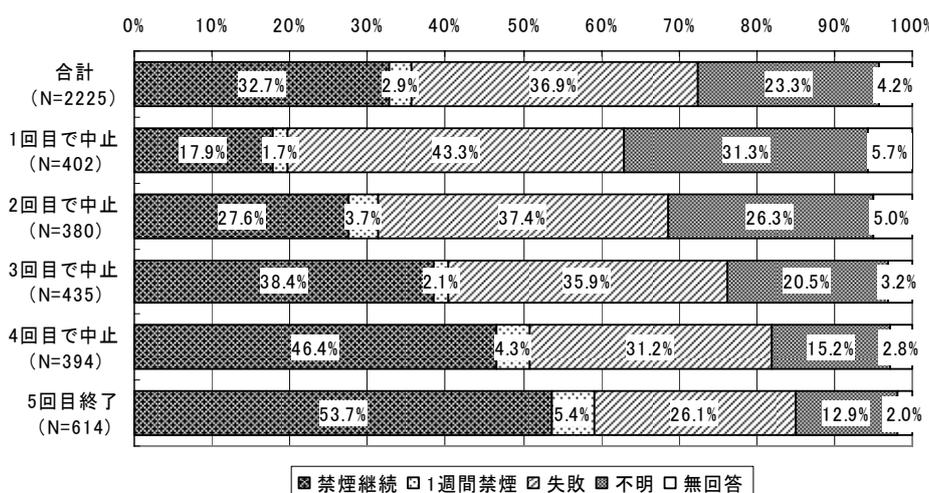
二次調査分析対象患者において、ニコチン依存症管理料の算定回数別に、指導終了3ヶ月後の状況と6ヶ月後の状況を比較した。

その結果、全体で3ヶ月後の禁煙継続率は34.8%、6ヶ月後の禁煙継続率は32.7%であった。5回の指導を全て終了した患者の3ヶ月後および6ヶ月後の禁煙継続率は各々63.2%、53.7%であった。算定回数(=治療回数)が多いほど禁煙継続率が高い傾向が認められた。

図表 42 指導終了3ヶ月後の状況(算定回数別)



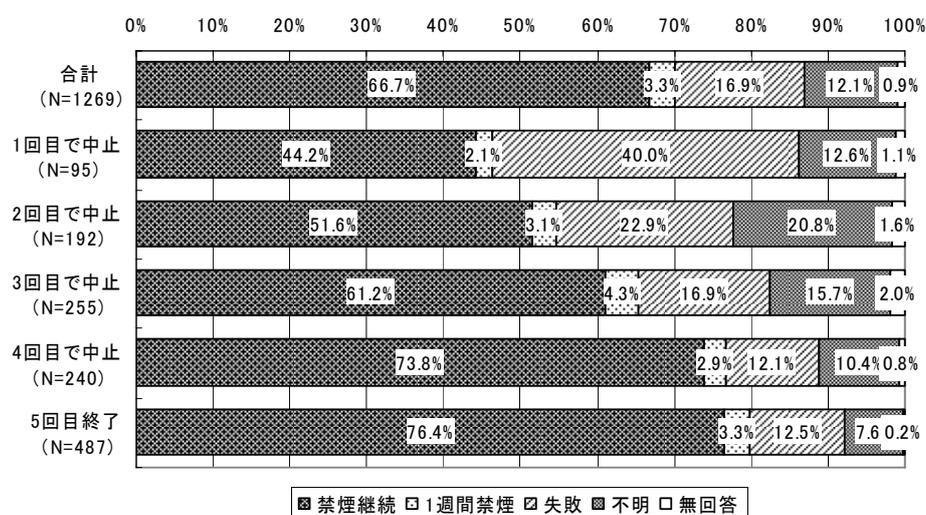
図表 43 指導終了6ヶ月後の状況(算定回数別)



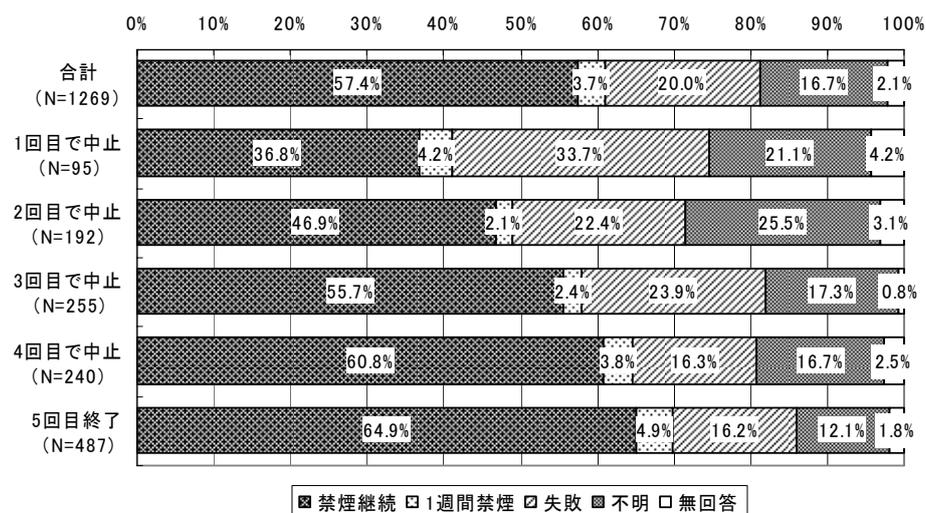
また、途中で治療を中止したが中止時に禁煙していた人、および5回の指導を終了した時点で禁煙（1週間禁煙もしくは4週間禁煙）していた1,269人について、ニコチン依存症管理料の算定回数別に、指導終了3ヶ月後の状況と6ヶ月後の状況を比較した。

その結果、6ヶ月後は全体的に禁煙継続割合が下がっているが、算定回数が多いほど禁煙継続の割合も多い傾向は変わっていない。

図表 44 指導終了3ヶ月後の状況（算定回数別：指導中止時／終了時の禁煙者のみ）



図表 45 指導終了6ヶ月後の状況（算定回数別：指導中止時／終了時の禁煙者のみ）



6. まとめ

- ・ ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期は、病院、診療所ともに診療報酬改定直後の平成18年4月が多かった。また、6月のニコチンパッチ等の保険適用を受けて、届出数が増加している傾向が認められた（図表10）。
- ・ 禁煙治療については、病院では約半数が専門外来を設置するなど、特別な体制で行っており、一方、診療所においては9割弱が通常の診療体制の中で実施していた（図表11）。
- ・ 患者に対する1回当たりの指導時間は初回と2回目以降では異なり、初回は「20～30分」（平均24.86分、中央値20.00）、2回目以降は「10～20分」（平均12.59分、中央値10.00）が多かった。初回の平均指導時間については、病院が平均29.40分（中央値30.00）であるのに対し、診療所では平均23.85分（中央値20.00）であり差が見られた（図表15、図表16）。
- ・ 今回の調査対象患者においては、28.4%がニコチン依存症管理料を5回まで算定していた。一方、1回目や2回目で中止してしまう患者も各々2割弱認められた（図表24）。
- ・ ニコチン依存症管理料を5回全て算定した患者では、指導終了時点で73.8%が4週間禁煙をしていた（図表25）。
- ・ ニコチン依存症管理料の算定を4回目までに中止した患者では、中止時に44.8%が禁煙していた。ニコチン依存症治療を実施した回数が多いほど、中止時の禁煙率が高い傾向が認められた（図表29）。
- ・ 指導終了3ヶ月後の状況をみると、全体で31.7%が3ヶ月後も禁煙を継続していた。5回の指導を全て終了した患者では3ヶ月後の禁煙継続率は58.9%であった。治療（指導）の回数が多いほど、禁煙継続率が高い傾向が認められた（図表34）。
- ・ 二次調査において、指導終了3ヶ月後および6ヶ月後の状況をみると、全体で3ヶ月後の禁煙継続率は34.8%、6ヶ月後の禁煙継続率は32.7%であった。5回の指導を全て終了した患者の3ヶ月後および6ヶ月後の禁煙継続率は各々63.2%、53.7%であった。治療（指導）の回数が多いほど、禁煙継続率が高い傾向が認められた（図表42、図表43）。